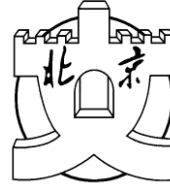


かささぎ



北京日本人学校
学校通信 第9号
平成29年 1月26日
校長 奥田 修也

三笠の山に出でし月かも

教頭 高橋 勝

「毎朝、校門に立っていると、子どもたちの人となりわかります。こちらが声をかける前に元気に挨拶をしてくれる子、立ち止まって深々とお辞儀をしながら挨拶してくれる子、挨拶したあと一瞬あった視線をあわててそらし早足に通り過ぎる子、下を向いたまましぼり出すような小さな声で挨拶を返してくれる子。人それぞれではありますが、どの子からもその子なりの一生懸命さが伝わってきます。あわてず急がず笑顔で挨拶できる関係をつくっていきたいと思います。」

赴任したばかりの頃、父母会広報誌に載せていただいた文章を読み返してみました。あれから2年あまりの年月が経ち、ふだん子どもたちと接する機会の少ない役回りの私ですが、少しは顔を覚えてもらえたような気がします。特に今年はある先生のご配慮で、登校時に「あいさつジャンケン」をしているせいか、満面の笑みで挨拶してくれる子が増えました。赴任当初に掲げた目標の何分の一かは達成できたかもしれません。

さて、いよいよこの3月に任期を終え、帰国することになりました。教頭は校長の補佐役として職務全般の調整を担っていますが、こちらでは国内とくらべ人と関わる時間が増えました。教職員や父母会役員の皆様との連絡調整のほか、運営理事会、日本倶楽部、日系幼稚園、現地校等の方々、学校見学や編入学希望の保護者の方、卒業生を含む留学生たち、そして業者の担当者らとの対応に、メールや電話を含めると一日の大半を費やすこともありました。子どもたちに「教頭先生のお仕事は何ですか」と質問されるとどう答えてよいものか困惑し、「何でも屋さんです」と話していたのを思い出します。

このような勤務状況に初めは戸惑いもありましたが、国内では関わることのなかった方々と話す機会を得ることができ、少しばかり知見を広めることができたことに感謝しています。また、風とおしのよい明るい職場に恵まれ、気持ちよく仕事ができたと幸いです。

個人的には、せっかくの機会です。中国の名所旧跡を巡らせていただきました。国語教師として長く教壇に立っておりましたので、中国で文学散歩ができたのはこの上ない喜びです。北京や上海に残っている魯迅故居、赤壁の戦いの古戦場、敦煌の莫高窟をはじめ、武漢では黄鶴楼に上って李白にならない長江の流れを眺めることができました。曲阜を訪れた際は、孔子の子孫にあたるガイドさんに案内してもらい、孔子廟や孔林を見学しました。孔子の墓の傍らには弟子の子貢の庵が残っていて、6年間喪に服したという彼の姿が浮かんでくるようでした。

中でも感慨深かったのは、西安の阿倍仲麻呂記念碑です。この記念碑は興慶宮公園の片隅にひっそりと建っていましたが、西安市と日本の奈良市の友好都市関係締結5周年を記念して設置されたものだそうです。正面にはうっすら残る金文字で「阿倍仲麻呂記念碑」と刻まれ、側面には仲麻呂の望郷詩と、李白の仲麻呂

の死を悼み詠った詩がほられていました。過ぎし日に修学旅行で奈良を訪れるたびに春日野から御蓋山（みかさやま）を望み、しみじみとした気分浸ったことを思い出しながらも、温かな日差しの中、記念碑を囲んで談笑している親子連れの様子が和みましました。習近平国家主席のスピーチにも取り上げられた仲麻呂と李白らの友情は、たしかに日中の民間交流の象徴なのかもしれません。「かささぎ」の思いを継承した者の一人として、帰国後も微力ながら日中の架け橋となれるよう努めたいと感じました。

結びに、お世話になった保護者の皆様、運営理事会の皆様、心より感謝申し上げます。さまざまな出会いをおして勉強させていただいたことを糧に、これからも子どもたちの笑顔があふれる学校づくりに励んでまいります。



国際ドッジボール大会を終えて

低学年部

北京日本人学校の体育館で、1月20日（金）に国際交流ドッジボール大会が開催されました。今年もフランス国際学校とドイツ大使館学校の子どもたちの参加があり、3か国での交流が行われました。日本人学校からは1・2年生の子どもたちが出場しました。

始めに、準備体操とチームごとにボール遊びをして体と心がほぐれました。試合が始まると、表情が変わり真剣な眼差しで戦っていました。子どもたちからは、「フランスやドイツの友達からパスがもらえて嬉しかった。」「観戦の時にあいさつをしたり、名前を聞いたりして友達ができた。」など試合だけでなく国際交流の良さを感じることもできました。

これをきっかけにフランス・ドイツだけでなく、中国をはじめ世界中の人と関わる機会をもち、さまざまな人と仲良くできる子どもたちに育ってほしいと願っています。



図書室より

今年度も残すところあと少しとなりました。図書ボランティアのお母様方、図書委員の児童生徒たちの助けを受け、今年度も有意義に図書室運営を行うことができました。図書ボランティアによる活動は、恒例の読み聞かせ、紙人形劇、ストーリーテリングなど充実した内容で、児童にとってはさまざまな形で優れたお話を知ることのできる大変良い機会に恵まれた1年になったと思います。さらに、クラフト会の活動による図書室の飾りつけや、推薦本の紹介などさまざまな活動に尽力していただきました。また、今年度中50冊以上本を借りた児童生徒は全校の8割を超え、本をたくさん読む児童生徒も少しずつ増えているようです。今後もこれまで以上に図書室を利用してもらえればと思います。今年度の最終貸出日は3月3日、返却日は3月10日までとさせていただきます。在庫整理のため、春休み中の貸出は行いません。ご理解の上、ご協力の程よろしく願いいたします。



お知らせ

本校の英会話講師 Steve W. Rey 先生が、ご都合により、1月13日をもちまして退職されます。本校には10ヶ月間勤務されました。わかりやすく、そして、明るく楽しい授業をしていただきました。また、1月16日より、Johanna M. Rey 先生が Steve 先生の代わりを務めます。



帰国いたします

高橋 勝

毎朝の登校指導も零下の時期になり、着ぐるみ状態で子どもたちに挨拶しています。帰国が決まり、見慣れていたはずの景色が何やら特別なものに見えてくる今日このごろです。赴任してからの3年間は、保護者の皆様、運営理事の皆様、そして同僚や事務スタッフのあたたかい笑顔に支えられながら、充実した生活を送ることができました。心より感謝申し上げます。帰国後は、ここでの経験を糧に新たな職場で励んでまいります。北京日本人学校のますますのご発展をお祈り申し上げます。

横尾 弘樹

とうとうこの時がきてしまいました。北京日本人学校に来てあっという間の3年間でした。決してすべてがいいことだけではありませんでした。ただ、北京日本人学校の子どもの輝いている姿には本当にパワーをもらいました。大気汚染問題など、恵まれた環境とはいえませんが、どんな環境にも対応しようとする子どもたちのたくましさも立派でした。40周年の大事な区切りに立ち会えたことも幸せでした。これからも強くたくましく、この日本人学校が歴史を刻み、子どもたちが世界に羽ばたいていくことを期待しています。最後に、子どもたち、そして学校を支えてくださっている皆様にお礼を申し上げます。谢谢!

金子 綱基

北京でうれしかったこと。誕生日はいつも、担任した子どもたちがたくさんお祝いしてくれたこと。将来の夢は「学校の先生!」と答えてくれる子がいたこと。自分の話(授業)を笑って聞いてくれたこと。病気にもなったけど、今は元気なこと。(少ないけど)「先生のクラスで良かった。」と言ってもらえたこと。日本ではできないたくさんの経験ができたこと。北京に来るまでは心配事も尽きませんでした。こうして幸せな気持ちで帰国を迎えられ、皆様には感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました。再見!!

楨野 玲

この2年間、かわいい1年生に囲まれて楽しく充実した日々でした。なんでも一生懸命頑張る子どもたちにいつも励まされ、たくさんのパワーをもらいました。子どもたちの成長を近くで見られたこと、それを一緒に喜ぶことができたことがとても嬉しかったです。素直で元気いっぱいの子供たちと、いつも温かく接して下さった保護者の皆様のおかげで、中国が大好きになりました。またいつかどこかで出会えることを楽しみにしています。本当にありがとうございました。

佐藤 翠

北京で出会った子どもたちは、元気!大きな声であいさつ!暑くても、寒くても全力で遊ぶ!明るい!いつもニコニコ!優しい!友達と助け合い、協力し合う!褒め上手!よく笑う!よく話す!たまに泣く!失敗したとき、悲しいとき、悔しいとき、自分の気持ちに素直!素晴らしい子どもたちに囲まれて、あっという間の2年間でした。このような素晴らしい子どもたちを育てた保護者の方々、職員のみみなさんからたくさんのことを学びました。本当に心から感謝しています。そして、いつかどこかで再会することを楽しみにしています。

中原 宏美

北京に来て3年。私自身、海外で生活することが初めての経験でした。その中で今までの自分になかった世界を視点にしたものの見方、考え方ができるようになったように思います。北京日本人学校の子供達もこの北京での生活の中で、私と同じような経験をしているのだと思います。それは、今後の「人生の宝物」として大切にしていってほしいです。そして、学校での楽しかった思い出や出会った友達とのつながりも大切にしていってほしいと思います。保護者の皆様からの温かいお言葉、ご支援がなにより私の励みとなり支えとなりました。本当に感謝申し上げます。ありがとうございました。

榎木 望

大阪から北京に赴任して早くも3年が過ぎようとしています。ここではたくさんの出会いがありました。いろんな国や地域から集まった子どもたち、保護者の方々、そして職員。大阪ではできない経験や発見があり、充実した日々を送ることができました。一期一会という言葉をより強く心に留め、ここで学んだことを大阪でも生かしていきたいと思っています。保護者の皆様にあたたかいご支援、ご協力に感謝しています。ありがとうございました。またどこかでお目にかかれる日を楽しみにしています。

綱島 健太郎

北京日本人学校の子ども達と共に、そして教職員・スタッフなど学校に関係する方々と共に、私のモットーである「挑戦！」を続けた幸せな日々でした。この北京で出会った頑張り屋で、輝いている子ども達が、自身の夢を追い続け、日本だけでなく、世界各地で活躍することを願っています。保護者の皆様からの温かいご支援の数々、言葉に言い尽くせない程で、感謝の気持ちでいっぱいです。本当にありがとうございました。この出逢いをここで終わらせることなく、これからもつないでいくことができれば嬉しく思います。東京で、日本で、世界で再びお会いしましょう。

小谷 佳

3年間、子ども達とは主に図工や書写で関わらせて頂きました。初めての道具や課題に取り組む時の、子ども達の期待に満ちたキラキラした眼差しがとても印象に残っています。時には墨や絵の具などで服を汚してしまい、保護者の皆様にはご迷惑をおかけしました。慣れない海外での生活でこのように無事に過ごすことができたのも、明るく子ども達、温かく見守ってくださった保護者の皆様、共に働いた学校職員・先生方の支えがあってこそです。この出逢いを大切に、またどこかで縁を結ぶことができれば幸いです。心から御礼申し上げます。有難うございました。

池田 由美

ここ北京に来た日は、まるで北京が私達を歓迎してくれているのかのような、清々しい晴れの日でした。あれから2年。明るく周りの人を思いやれる心を持った児童生徒の皆さんと過ごした日々は、あっという間に過ぎていきました。たくさんの貴重な体験をし、充実した日々を送ることができたのも、児童生徒のみなさんの笑顔、保護者の皆様や先生方、中国人スタッフ、出逢った全ての方々の支えがあったからだと思います。ここ北京でのたくさんの素敵な出逢いに感謝し、また、いつかどこかで皆さんと再会できることを楽しみにしています。ありがとうございました！

